

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	8	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校 長 名	青木 暁乃
------	---	-------	--------------------	-------	-------

1 目指す学校像

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き ～子どもの能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する～

- ・学校、保護者、地域の方々と共に、さらに児童生徒同士、児童生徒が自分自身を、育て、成長すること
- ・児童生徒一人一人がそれぞれのステージでできることを増やしていくこと、人や社会との関わりが広がること
- ・自分の良いところを伸ばし、他者から認められ、自信をもって生きる姿、生きる力を高めること

(2) 目標具現化の柱

- ア 人権尊重の理念に基づいた、児童生徒が安全に安心して学習できる学校 (安 全)
- イ 児童生徒のニーズに基づいた、キャリアを踏まえた指導及び支援ができる学校 (専 門)
- ウ 地域や関係諸機関等との強いつながりに基づいた、共生社会を進める学校 (連 携)
- エ アサーティブな関わりに基づいた、チームとしてやりがいを持てる学校 (チー ム)

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
安 全	人権に配慮した指導の徹底	・「さん」付けと挨拶の励行 ・道徳や保健指導における、年間指導計画に基づいた授業の充実	・職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・生徒自身や保護者が、人権が尊重されていると感じている。	保体・防災 学部・学年 教務・自立
	誰もが安心して通える学校	・掲示物や共有データ、教材・教具や引継ぎ用文書などの整理 ・職員や生徒にとって、分かりやすく居心地の良い環境の整備	・校内の情報や物品がシンプルに機能的に整理されている。 ・調整や工夫により、教室や特別教室が有効に活用されている。	学部・学年 教科部会 保体・防災 教務・自立
専 門	生徒との対話を通じた教育的ニーズの把握	・学年を超えた複数の目での実態把握と生徒へのフィードバックやレスポンス機会の充実 ・生徒が学びの価値や成長を実感できる授業研究の実施	・生徒自身が自分の得意や苦手を知り、生活の中で活かしている。 ・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が自分の得意を活かし、主体となって活躍している。	研修 進路・地域 作業班 学部・学年
	個に応じた適切な進路決定	・キャリアパスポートの活用による、各学年の段階に応じた職場実習や進路指導の充実 ・段階的な進路決定のための、保護者への情報提供と情報共有	・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協働している。	
連 携	関係諸機関とのつながりを大切にしたい切れない支援と指導	・出身中学校、居住地区行政、福祉、医療、実習先、進路先など関係機関との連携 ・保護者と早期に信頼関係を築くことでの、1年次における生活指導と生徒指導の充実	・職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ・保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、学校と連携している。	進路・地域 生徒指導 学部・学年
	生徒の自立と輝きに向けた共生・共有の充実	・田農との共同授業、交流授業などの実践とその成果の情報発信 ・学校運営協議会による学校応援活動の精選と充実	・生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、外部人材との交流学习に主体的に参加している。 ・学校運営協議会と教職員とが、相互に連動している。	教務・自立 学部・学年 作業班
チー ム	チームとしてやりがいのある職場	・教職員がそれぞれ受けた研修を共有することでの、学び合いの充実 ・事務執行状況の情報共有 ・職場環境改善への迅速な対応	・教職員が、チームとしての成長を実感している。 ・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	学部・学年 研修 事務担当